

## 福祉常任委員会行政視察報告書

### 1 実施日

平成29年7月10日（月）～7月11日（火）

### 2 視察先団体及び視察項目

#### (1) 京都府宇治市

初期認知症総合相談支援事業について

#### (2) 大阪府高槻市

高槻市ますます元気！健幸ポイント事業について

### 3 福祉常任委員

委員長	西村幸吉	副委員長	高山敏朗
委員	伊原忠	委員	正田富美恵
委員	菅野文男	委員	林隆文
委員	松崎寛文		

### 4 随行職員

議事課主任主事 杉本尚己

## 初期認知症総合相談支援事業について（京都府宇治市）

本市では、平成 27 年 3 月に「八千代市高齢者保健福祉計画」が策定され、同計画に掲げられた認知症ケア体制の構築に向け種々の取組みが進められているが、認知症初期集中支援チームについては未だ設置されておらず、現在、同チームの設置等に向けた検討がされているところである。

このため、本委員会は、平成 25 年度から初期認知症総合相談支援事業として、認知症コーディネーターを設置し、早期支援の入り口となる「認知症対応型カフェ」の運営、早期支援の機能となる「認知症初期集中支援チーム」を設置している、宇治市の取組みを学ぶべく、同市の視察を実施した。

当日は、宇治市役所の会議室において、同市議会議長の坂下弘親氏から市の概要を、職員から事業の説明を受けた後、質疑応答を行った。

担当職員による説明の概要及び委員の質疑応答の内容は以下のとおりである。

### 1 事業実施までの経緯

宇治市における認知症に関する取組みは、平成 13 年度に全国に先駆けて実施された認知症予防教室から始まっている。平成 20 年度に認知症地域支援体制構築モデル事業（京都府）を受託し、平成 23 年度には宇治市認知症事例集の発行と宇治市徘徊模擬訓練「認知症の人に声をかけようプロジェクト」を実施している。



また、平成 23, 24 年度には認知症疾患医療センターが 2 院開院されたこともあり、認知症に対する地域の支援体制構築の基盤がある状況となった。さらに、京都府地域包括ケア総合交付金で認知症カフェ、初期集中支援を実施する動きがあり、医師会在宅医療担当理事や認知症専門医からも「認知症カフェを実施したい」との声が上がっていた。

このため、平成 25 年度に国から認知症初期集中支援事業設置促進モデル事業について話があり、これを受託し、初期認知症総合相談支援事業を開始することとなった。

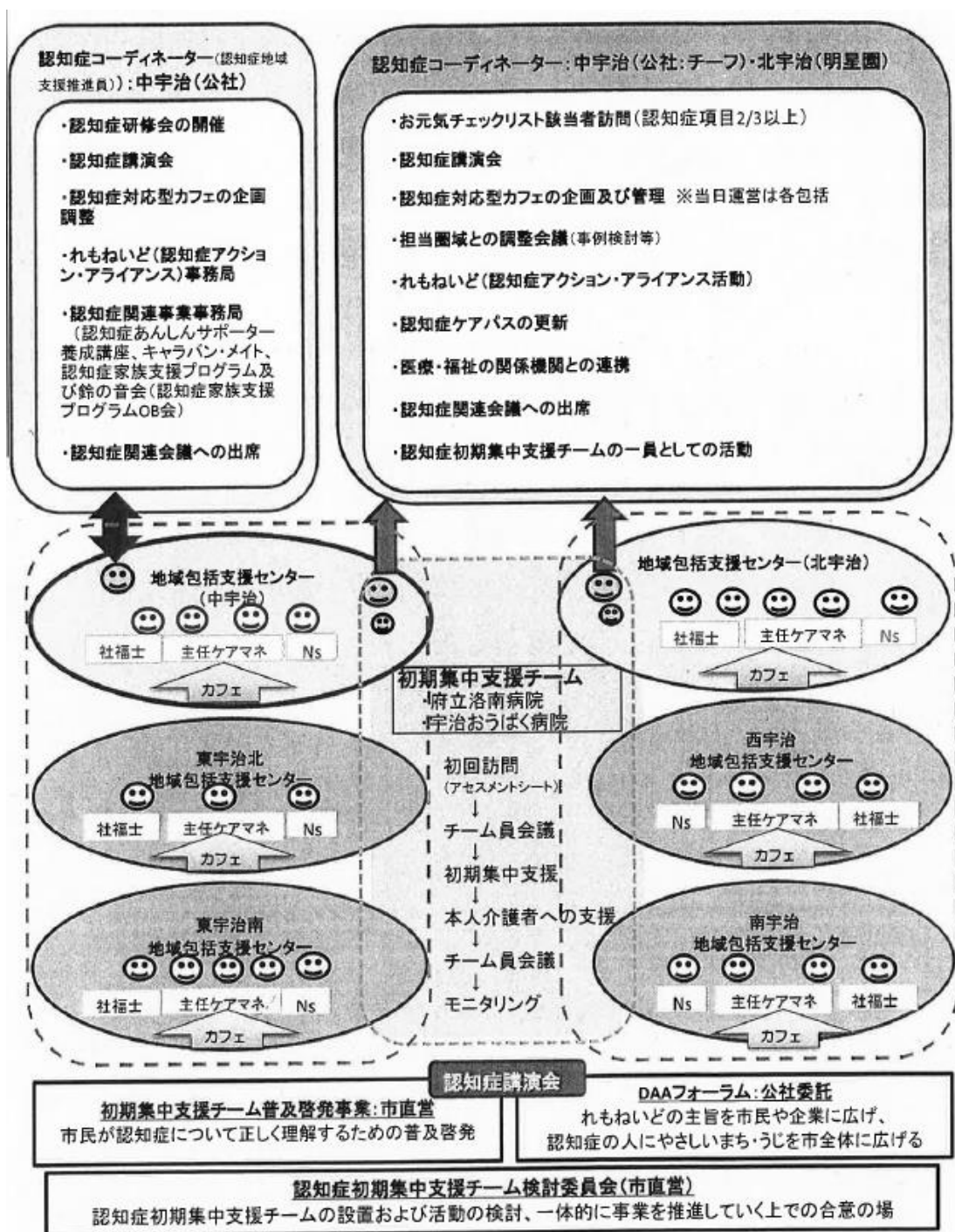
初期認知症総合相談支援事業が実施される以前は、認知症が軽度から中度に進行した状況で発見されるため、地域包括支援センターの支援は施設への入所等といった支援が主となっていた。

### 2 事業内容

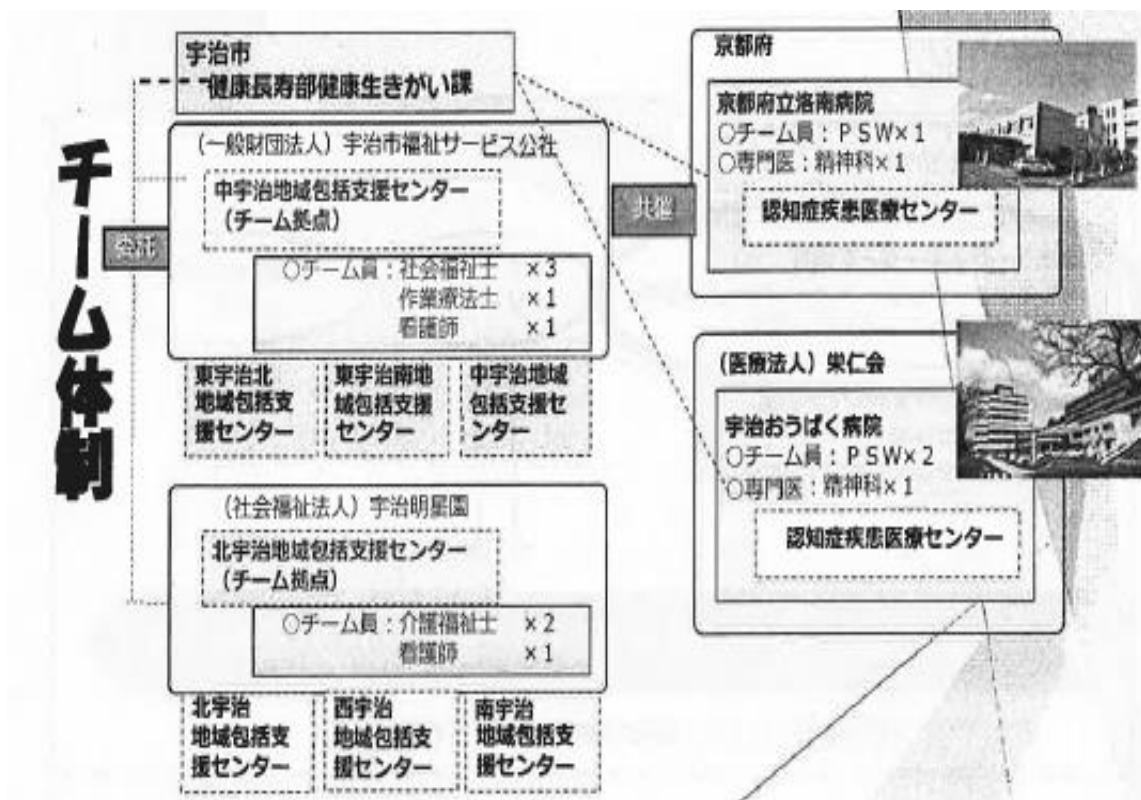
宇治市における初期認知症総合相談支援事業では、認知症対応型カフェの企画や認知症関連事業の事務局を担う認知症コーディネーターを2カ所の地域包括支援センターに計3名配置するとともに、早期支援の機能を担う認知症初期集中支援チームを設置している。

同コーディネーター及び同チームの体制及び連携は図1、2のとおり。

(図1)



(図2)



## (1) 取組みの特徴

### ア 認知症コーディネーター

- ㊦ 認知症対応の専属として専門職を配置することで、地域包括支援センターの業務との役割分担を明確にし、初期認知症総合相談支援事業の成果を明確化。
  - ㊧ 認知症に特化したスキルの向上が図られ、専門医との連携窓口となる。
  - ㊨ 素早い対応。
  - ㊩ 認知症関連事業の事務局機能を持たせることで、事業間の連携が図れる。
- ※ 同コーディネーターは、市から委託された宇治市福祉サービス公社及び宇治明星園の職員が務めている。両団体は、地域包括支援センターと介護予防事業を受託している団体でもあり、社会福祉士、作業療法士、介護福祉士、看護師等、多職種が勤めている。

### イ 認知症初期集中支援チーム

- ㊦ 厚生労働省指定のアセスメントシートに加え、独自に作成したアセスメントシートの活用。
- ㊧ チーム員だけでなく、地域包括支援センター、介護事業所、認知症患者やその家族等も必要に応じて参加してもらうといった、チーム員会議への参加者の工夫。
- ㊨ 認知症の診断に当たり、対象者の脳画像を活用。

㊦ 認知症対応型カフェ（れもんカフェ）での相談を認知症初期集中支援チームが担っている。

(2) 宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど（Lemon-Aid）”

宇治市では、認知症の人やその家族だけにかかわらず、市民一人一人が認知症を自分のこととして捉え、認知症を正しく理解し、相手を思いやる優しさをもって、自分のできるアクションを起こしていくため、『認知症の人にやさしい「まちづくり」』『認知症の人にやさしい「ひとづくり」』『やさしさの「Win-Win関係づくり」』を柱とした“れもねいど”を設置している。

れもねいどの取組みは、登録団体に対して特別な取組みをお願いするものではなく、普段の生活の中で、認知症に対する理解の意識を持ってもらうことを第一とし、個々の団体でできることを実施してもらうことを目的としている。

平成 29 年当初時点において 37 団体が加盟しており、取組みの一例として下記の取組みが実施されている。

ア 認知症患者の就労支援として、市内の 2 茶園が宇治茶の摘み子として認知症患者を雇用（短期）。

イ 買い物支援として、京都生協コープ宇治神明店では、ボランティアによる買い物サポートモデル事業や支払いをゆっくりできるスローレジを設置。

4 委員からの質疑及び回答

(1) 国からのモデル事業受託の経緯について

平成 25 年度当初時点において、市内に認知症に関する病院が 2 院開院していたこと、また、同病院と定期的に会議を開催している状況であったことから、認知症専門医とチームが組める体制の基盤が整っていた。

このため、国から京都府に認知症初期集中支援事業設置促進モデル事業の実施先について話があった際、宇治市が紹介され、モデル事業を受託することとなった。

(2) れもんカフェの実施内容及び従事者について

自治体等によっては、同じ行政区域内でも、個々に実施内容が異なり、地域の特色を出しているところもあるが、宇治市では、企画を認知症コーディネーターが行い、当日もスタッフとして従事するため、市内どこでも同じメニューとなっている。

また、開催場所を提供してもらう法人等の従業員も当日はスタッフとして協力してもらっている。

(3) 事業費及び認知症コーディネーターの配置体制について

中宇治及び北宇治地域包括支援センターに職員3名と補助員1名の計4名を配置している。認知症コーディネーターの募集に当たっては、「看護師のみ」等といった職種制限はしていなく、認知症支援に関する業務に携わっていた方といった形で募集した。

なお、事業費は約1,900万円となっているが、れもんカフェ関係で120万円程度支出しているが、残りはほとんど人件費となっている。



## 高槻市ますます元気！健幸ポイント事業について（大阪府高槻市）

本市では、介護予防を推進するため、高齢者保健福祉計画に「介護予防に関する普及啓発」「健康づくりや介護予防を推進する人材の養成とその活動支援」等を掲げ、介護予防に関する出前講座ややちよ元気体操応援隊養成講座、がん検診等の各種取組みを実施している。

しかしながら、運動や健康に関心が低い方や、健康を意識していても具体的な行動に移せていない方も少なからずおり、いかにして健康づくりに関心を持たせるかが課題となっている。

このため、本委員会は、健康づくりに関連した取組みを実施した高齢者に対し、記念品等との交換を実施している大阪府高槻市の取組みを学ぶべく、同市の視察を実施した。

当日は、高槻市役所の会議室において、長寿生きがい課職員から事業の概要について説明を受け、質疑応答を行った。

担当職員による説明の概要及び委員の質疑応答の内容は以下のとおりである。

### 1 事業実施の経緯

現在の市長がマニフェストに掲げていた取組みであり、平成 25 年度に更なる高齢者の健康づくりの事業として検討し、平成 26 年度から事業を実施することとなった。なお、検討に当たっては、熱海市等の取組みを参考としている。

### 2 事業の概要

#### (1) 目的

市内在住の高齢者に、市が実施する様々な事業に参加してもらい、介護予防や健康増進に主体的かつ継続的に取り組むことによって、健康寿命の延伸と介護予防を推進するとともに、家庭や社会生活で役割を持つことによって、いつまでも元気に暮らしてもらうことを目的としている。

なお、参加者数の目標値については、厚生労働省において介護予防活動の参加目標を高齢者人口の 10%以上としていたことから、市内高齢者人口約 10 万人の 10%に相当する 10,000 人を設定した。

#### (2) 事業内容

市が実施する介護予防や検診等の事業に参加した方に対してポイントを付与し、一定のポイントを達成した参加者に障害福祉サービス事業所で作成された記念品との交換、又は、民間保育施設への寄附を選択していただいている。

また、ポイントの管理については、参加者が事前に配布される健幸パスポート（要申請）で管理している。

なお、健幸パスポートには、ポイント管理の他、元気度チェックリストや健康取組みを記帳できる記録用紙もつけている。



ア ポイントの付与方法

参加者が持参した健幸パスポートに事業主催者がスタンプを押している。

イ 対象事業

ポイント付与対象となる事業については、平成 29 年度は講座・検診等 85 項目の他、地区の清掃への参加等のボランティア活動、ハイキング等の趣味活動を設定している。

なお、対象事業の選定については、「高槻アクティブシニア応援ビジョン」を参考に選定されており、対象事業（一例）及び付与ポイント数については、表 1 のとおり。

（表 1）

部門	事業名	ポイント数
健康部門	元気体操クラス	10 ポイント
	介護予防講演会	
	認知症イベント	
	市民医学講座	
	歯科健診（歯っぴー健診）	
	健康料理教室	
	障がい児・者スポーツ教室	
生涯学習・文化・芸術部門	高槻市美術展覧会	5 ポイント
	ステンドグラス入門教室	
	高齢者向け交通安全教室	
	デジタルデバイド解消個別相談会	
	たかつき市民環境大学	
	みんなで聴こう オーケストラ！	
	第 18 回レセプション亭落語会	
ボランティア活動	10 ポイント	
趣味活動	5 ポイント	

※ ボランティア活動及び趣味活動に対するポイント付与は、1 年度 1 回限り

ウ 記念品及び寄附等

達成目標ポイント数として、100, 200, 300 ポイントを設定しており、それぞれ



れのポイント数に応じた記念品及び寄附コースを設定している。ただし、記念品及び寄附の選択は、一人1年度1回としている。

記念品及び寄附の内容については、表2のとおり。

(表2)

種類	コース	内容	備考
記念品 交換	100ポイント	(A)ますます元気大作戦！フェイスタオル1本	いずれか 1つを選 択
		(B)記念品交換券1枚(500円相当)	
	200ポイント	(A)ますます元気体操DVD2枚組	
		(B)ますます元気大作戦！フェイスタオル2本	
		(C)記念品交換券2枚(1,000円相当)	
	300ポイント	(A)ますます元気大作戦！Tシャツ	
(B)記念品交換券3枚(1,500円相当)			
寄附	100ポイント	民間保育園・認定こども園への寄附1口(500円)	38園の中 から1園 を選択
	200ポイント	民間保育園・認定こども園への寄附2口(1,000円)	
	300ポイント	民間保育園・認定こども園への寄附3口(1,500円)	

### (3) 実施効果等

健幸パスポートにより、市内在住の高齢者が楽しんでポイントを集めることにより、介護予防や健康増進に主体的かつ継続的に取り組むことができ、健康寿命の延伸と介護予防の推進に効果があったと認識している。

また、事業終了後に実施したアンケートでは、「生活習慣が変わった」「関節痛・高血圧・便秘などが改善された」「前向きになった」「健康意識が高まった」といった意見があったことから、外出支援、社会参加などにも一定の効果があったものと認識している。

#### ア ポイント交換実績

平成28年度は計6,211人の参加があり、そのうち2,476の方がポイント交換をしている。なお、そのうち173件、計164,000円が民間保育園等に寄附されており、絵本や歌のCD購入等の費用に充てられている。

#### イ 表彰状授与者数

平成29年3月末までの期間中、継続的な介護予防に取り組まれた248名の方に

対し、表彰状をお渡ししている。

### 3 委員からの質疑及び回答

#### (1) 記念品等の選定について

自分が頑張ったことに対し記念品をお渡しすることで、市民の介護予防等への取組みを推進するという考えの他に、その頑張りが何らかの形で、社会の役に立つようにしたいという考えがあった。このため、内部で検討した結果、障害者施設等で制作された商品を記念品として選定した。

#### (2) 国からの補助金等の交付有無について

介護保険事業として実施しているため、診療報酬等の法定割合費は含まれているものの、その他の補助金は含まれていない。なお、市単独支出は事業費全体の12.5%となっている。

#### (3) ボランティア活動及び趣味活動へのポイント付与が1回限りであることについて

事業実施当初、健幸ポイントは最終的に記念品や寄附金となるものであることから、「金銭の支出と変わらない」との意見が内部であり、確認が取れない活動にまでポイントを付与することはできなかった。しかしながら、事業を継続していく中で、「ボランティア活動、趣味活動のみで記念品等との交換に直接結びつかないのであれば、ポイント付与の対象としてもよいのではないか」との意見があったため、平成28年度からポイント付与の対象とした。

このような考えから、ポイント付与は1回限りとしている。

